「7 月度研修会／先端研」報告

修習技術者支援実行委員会　委員
平塚由香里　技術士(電気電子部門)

１．研修会概要

日　時　平成 25 年 7 月 20 日（土）
13：00～20：00
主　催　公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル 5 階

２．研修会の内容

開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:00～13:05 神下　栄
講演１　講師紹介 修習技術者支援実行委員会	13:05～13:10 濱本　宏
講演１　「海外業務に役立つ知識 -JICA 業務の経験から-」 （株）ＶＳＯＣ	13:10～14:10 森島　啓司氏
休憩	14:10～14:20
講演２　講師紹介	14:20～14:25
講演２　「研究に必要な知識とその応用」 法政大学　生命科学部	14:25～15:25 鍵和田　聡氏
質疑応答・総合討論	15:25～15:50
休憩	15:50～16:00
7 月度先端複合技術研究発表会 司会	16:00～18:00 高橋　裕二
情報交流会	18:00～20:00

３．研修会の参加者

今回の研修会の参加者は 38 名であり、そのうち 13 名が技術士ということで、修習技術者だけでなく、技術士の方にも興味を持って参加頂いたようである。

４．研修会状況について

今月の研修会の課題は、「業務遂行能力」、－業務に役立つ知識－海外と国内・研究と現場であった。自然環境保全分野・植物保護分野でご活躍されている講師 2 名のご講演を通して、海外と国内・研究と現場という観点から、業務を円滑に進める力の形成に役立つ知識を得る貴重な機会となった。

開会の挨拶では、神下委員長から「何か一つ持ち帰って下さい」との思いが伝えられた。

写真１：開会挨拶

♦　講演１について

森島氏の講演は、「海外業務で役立つ知識とは」と題して、ＪＩＣＡ業務のご経験からＯＤＡ事業の動向や、ＪＩＣＡ委託業務の種類や業務の手順といった知識と、国際協力人材に求められる資質と能力についてお話頂いた。特に、国際協力を倫理面からご説明頂いたのが、興味深かった。結論として、途上国における倫理意識は一般に高いとはいえないことや開発が倫理に優先するという傾向は否定できないこと、日本の進んだ考え方や優れた技術を導入する必要性と意義が大きいこと、また、情報公開と意思疎通は様々な面で重要であることを挙げられた。海外業務においては、優れた技術そのものを導入するだけでなく、相手の文化や習慣を理解し、その国にモディファイして継続して使ってもらえるような工夫が重要であると理解した。

写真２：森島氏の講演状況

♦　講演２について

鍵和田氏の講演は、「研究に必要な知識とその応用」と題し、修習技術者のためのガイドブックの中で挙げられている研究者とし

て必要な知識・資質と対比させつつ、ご自身の研究を振り返りながら、研究に必要な知識や資質、また、その応用についてお話頂いた。

研究への取り掛かり時期には、「知的冒険心・野心」が重要で、特に、疑問に思うことが第一歩であり、注目した内容について、積極的な思考を巡らせることにより仮説がでてくると述べられた。ニッチな部分をテーマにしながらも、予算獲得のためには、はやりを取り入れることも必要で、そのバランスが大切であるとのことである。また、研究の遂行時期には、「粘り強さ・楽天的」が重要で、失敗を無駄にせず、失敗から積極的に情報を得ていくような辛抱強さが求められることを強調された。是非実践していきたい。

写真３：鍵和田氏の講演状況

♦ **質疑応答・総合討論**

2 名の講師のご講演の後、2 件合わせての質疑応答及び総合討論が行われた。現地の方に日本に来て頂いて研修を行う場合には、学問や技術だけでなく、日本のインフラや時間感覚、丁寧な文化等を実際に体験して頂くことが重要であることや、海外で業務を行うには、よく観察することや、合意形成を行いあるところに落とし込んでいく能力が大切であることが強調された。また、研究の現場において、郷に従うとは、現場にあったテーマを選定することで、そのためには、ニッチな部分をねらいながらも、実用化できるものや世の中のはやりを取り入れることが重要であることが語られた。さらに、挫折した時立ち直るには、仕事以外の楽しみを持つことがコツであるとの話も興味深かった。

写真４：総合討論状況

５．**先端複合技術研究発表会**

先端複合技術研究発表会では、ＴＶ会議での中継による中国本部からの参加者 1 名を含む、修習技術者 3 名（瀬尾英史氏、和泉洋氏、米田仁亮氏）の発表及び、活発な質疑応答があった。

写真５：先端研状況

瀬尾氏からは、「併用後 30 年以上経過した高架橋の 566 基におよぶ支承交換による耐震補強工事」と題して、工事遅延に対処するために材料の選定や支承構造、施工法などの対策を行った結果、要求品質を満たしながら無事工事を終了した旨の発表があった。活発な質疑応答がなされ、突っ込んだ内容の質問もあったが、落ち着いて答えられていた。

和泉氏からは、「超伝導物質の研究とその課題」と題して、現在の超伝導の研究がどのくらい進められているのかについての丁寧な説明及び、超伝導物質の実用化についての考察があった。用途についての質問が目立ったが、質問者にアイコンタクトをとりながら、自身の考えを真摯に述べられていた。

米田氏からは、「右折車線設置に伴う現道拡幅設計」と題して、工事用車両の通行期間が 5 年と長く、流入側道路の交通量が多い状

況において、工事中および共用後の現道の安全性向上を目的とした右折車線の設置およびそれに伴う現道拡幅を行った旨の発表があった。資料の図面が非常に凝っており分かりやすかったため、ＴＶ会議での発表であっても内容が伝わりやすかった。主体的に検討がなされていることから、人材育成環境についての質問があり、自分で調べることや自分の考えを持ちなさいとの方針のもと、実践の中で鍛えられた旨の回答が興味深かった。

６．情報交流会

研修会終了後、会議室で交流会を行った。活発な交流により有意義な時間を過ごした。特に、筆記試験直前ということで、受験予定の方の決意表明がなされるとともに、それに対し会場から熱いエールが送られ、受験に向けての意識が高まった様子であった。

以上